

令和6年度森林環境譲与税の使途

成田市の森林環境譲与税の使途内訳

(単位:千円)

事業名	事業内容	決算額	財源内訳			
			森林環境 譲与税	基金 取崩額	基金 運用益	その他
森林保全事業	委託料	道路や電線などの重要インフラ施設の倒木被害を未然に防止するため、「重要インフラ施設周辺森林現況調査」及び「重要インフラ施設周辺森林整備事業」などによる森林整備のほか、森林ボランティアなどの育成を目的とした「里山ボランティア研修事業」の実施のための委託料を支出した。	17,589	16,028		1,561
	使用料及び 賃貸料	森林関連情報を県と共有し、業務の効率化を図るため、「森林クラウドシステム」の回線使用料を支出した。	84	84		
	負担金及び 交付金	県内の会員市町村で組織される千葉県森林経営管理協議会の負担金を支出したほか、千葉県森林組合が実施する森林の下刈りを支援するため「森林整備事業補助金」を交付した。	195	195		
	消耗品費	森林整備に係る現地調査や完了検査を行うために必要となる、木杭を購入した。	29	29		

成田市の森林環境譲与税の使途内訳

(単位:千円)

事業名	事業内容	決算額	財源内訳			
			森林環境 譲与税	基金 取崩額	基金 運用益	その他
道路施設等管理事業	備品購入費	駅前広場の利便性向上のため、道路附属物として国産の木材を使用した据置式テーブル・ベンチを購入した。	930		930	
森林環境整備基金 積立金	基金	森林の整備及びその促進に関する施策に備え積み立てた。	23,104	23,084	20	

令和6年度に実施した主な事業

重要インフラ施設周辺森林整備

- 成田市では、令和元年の台風による大量の倒木が、道路や電線などの重要インフラ施設に多大な被害をもたらしたため、本市が事業主体となり、重要インフラ施設への倒木被害を未然に防止するための森林整備を進めている。
- 令和6年度においては、前年度に実施した森林の現況調査の結果等をもとに選定した市内2か所において、県の「災害に強い森づくり事業」や森林環境譲与税を活用し、被害木や倒木の恐れがある樹木の伐倒・搬出、跡地への植栽を実施した。

□ 事業内容

重要インフラ施設周辺森林整備

前年度に実施した現況調査の結果や市民からの要望等を踏まえ、市内2か所において、被害木や倒木の恐れがある樹木の伐採・搬出、跡地への植栽を実施した。

【事業費】14,749千円(うち譲与税13,188千円)

(譲与税は、樹木の伐倒・搬出・植栽に充当)

【実績】更新伐0.96ha 特殊地拵え0.10ha

被害材運搬537.57t 植栽0.72ha 下刈り3.16ha

□ 取組の背景

令和元年の台風では、市内において大量の倒木が発生し、道路や電線に倒れかかり、交通障害や大規模な停電を引き起こした。

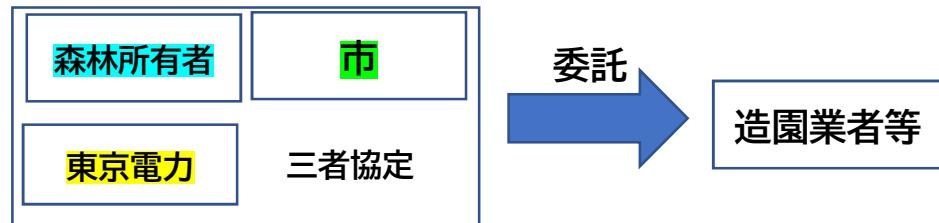


(事業実施前)



(事業実施後)

□ 事業スキーム



※東京電力、森林所有者、市で「森林整備に係る協定書」を締結する。

□ 工夫・留意した点

災害に強い森づくり事業の採択要件を満たないような森林については、市の単独事業として、森林環境譲与税を活用し、森林整備を実施することで、効果的・効率的な森林整備を実現した。

□ 取組の効果

- 倒木の恐れがある樹木や被害木を伐採し、中低木の広葉樹を植栽することで、倒木の恐れがなくなり、市民の安心で安全な生活を確保することができた。
- 同様の理由により、本市の避難所となっている施設への送電が遮断されるリスクが軽減されたため、避難所の確実な運営が期待できる。
- イロハモミジやヤマザクラなど、華やかな広葉樹を植栽したことにより、良好な景観の形成が見込まれる。

小学校郊外森林体験

- 成田市では、森林所有者の高齢化や不在地主の増大により、荒廃した森林が増加しており、子供たちが里山で遊ぶ機会がほとんどなくなってしまっていた。
- このような現状を踏まえ、森林環境譲与税を活用し、児童を対象とした「もりあそび体験」を実施することで、里山への理解や関心を深めてもらうとともに、本市における里山活動に興味を持っていただく事業に取り組んだ。

□ 事業内容

小学校郊外森林体験（令和6年度は雨天のため屋内で実施）

- 自然のものを用いて遊び、森の素晴らしさや豊かさを実感するプログラムとなっており、具体的には葉っぱじゃんけん、ネイチャーライン、秋のモービル、落ち葉とばし、ドングリ転がし、ドングリのゆくえの6種類のプログラム実施した。

【事業費】418千円(全額譲与税)

【実績】成田市立大栄みらい学園1年生52名

成田市立下総みどり学園1年生35名 を対象に実施

□ 取組の背景



(ドングリのゆくえ)



(落ち葉飛ばしの様子)



(葉っぱじゃんけんの様子)



(ネイチャーラインの様子)

□ 工夫・留意した点

- 児童を4～6班に分け、それぞれに自然観察指導員が付き、児童が森の素晴らしさや豊かさを実感できるようにプログラムの流れを工夫した。

□ 取組の効果

- 今回のもりあそび体験を通して、児童が自然と触れ合うことで、里山への理解や関心を含め、将来、担い手となる人材を育むきっかけとなった。
- 児童も初めて見る虫や葉っぱ、木の実に興味をもち、熱心に6種類のプログラムに取り組んでいた。